

参 考 資 料 2

発達障害者地域支援マネジャーによる 事業所へのEBP（根拠ある実践） コーチング支援の実際

横浜市発達障害者支援センター発達障害者地域支援マネジャー

米澤巧美



- ・「高い山は広い裾野を必要とする（侑愛会高橋和俊Dr）」<https://kazutoshitakahashi.tumblr.com/post/160617586965/5l-%E9%AB%98%E3%81%84%E5%B1%B1%E3%81%AF%E5%BA%83%E3%81%84%E8%A3%BE%E9%87%8E%E3%82%92%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%A8%E3%81%99%E3%82%8B>
- ・「高い山に登るにはガイドやコーチが必要（全日本自閉症支援者協会：志賀利一）」<http://kyoudokoudousyougai.seesaa.net/>

概要



●地域支援マネジャーとは



2014年度からの国制度

正式名称は『発達障害者地域支援マネジャー』

- ① 市町村の支援体制の整備に必要な相談・助言等を行うこと
- ② 事業所等が困難ケースを含めた支援を的確に実施できるように助言・指導等を行うこと
- ③ 適切な医療の提供に必要な情報の収集・集約を行うほか、医療機関と関係機関等との連絡・調整等を行うこと

上記の3つを行う事業として2014年度から開始された。

全国のすべての都道府県・政令市に配置されているわけではないが、2017年4月時点で141人の地域支援マネジャーが活躍している。

横浜市は個性的な運用

- 現在、横浜市発達障害者支援センター（社会福祉法人横浜やまびこの里が横浜市より委託運営）に地域支援マネジャーが配置されている
- 委託の条件から、自ずと成人（18歳以上）の発達障害者等の支援が中心であり、幼児・初等教育・中等教育の時期は原則支援対象にならない
- 上記の目的の「②事業所等の困難ケースへの助言・指導等」を中心に、特に著しい行動障害のある人たちを対象として事業を展開している
- 横浜市時における事業開始に至った概要は、次のスライドで紹介

●横浜市の地域支援マネジャー誕生の経緯

横浜市自閉症児・者親の会等からの要望

人口370万人の大都市で地域福祉を早くから推進してきた横浜市ならではの新しい問題

グループホームは積極的に整備されているが、**行動障害が著しい自閉症の人の住まいの場が足りない**

横浜市外（県外）の入所施設で生活しなくてはならない人、精神科病院から退院が難しい人、日中の通い場所の無い在宅生活を続けている人等、いわゆる『居なし』あるいはそのリスクの高い人が多い。
今後益々増える！

横浜市障害者施策推進協議会を経て

【2014年8月8日】
進路対策研究会／自閉症懇談会（横浜市社協事務局・学識経験者・親の会・福祉事業関係者・教育・市職員17人で構成／座長：神奈川県立大学名誉教授 谷口政隆）が第3期障害者プラン策定に向けての『基本と提言（自閉症とりわけ行動障害の方について）』をとりまとめる。

2015年からの「第3期障害者プラン」の「住まい」の施策の1番目に**「行動障害のある方の住まいの検討」**が明記される

2015年度に**「行動障害のある方の住まいの検討部会」**により検討（横浜市障害計画課事務局・学識経験者・親の会・福祉事業関係者9人で構成）。
【2016年3月】
報告書がまとめられ、方向性が提言される。

●行動障害のある方の住まいの検討部会の提言から、2016年10月より地域支援マネジャーが誕生

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/fukushi-kaigo/fukushi/shingikai/sumai/20150526181313.files/0048_20180724.pdf

横浜市における‘行動障害’のある方の状況

・強度行動障害者居住類型別の状況（推計）

（第一回住まいの検討部会配布資料p.5から引用 H27.3月末）

	施設入所	グループホーム	在宅	合計
総人数	827	2,604	7,743	11,174
強度行動障害者数 (割合)	557 (24.2%)	514 (22.4%)	1,228 (53.4%)	2,299 (100%)
居住類型別割合	67.4%	19.7%	15.9%	20.6%

⇒強度行動障害に至っても、半数以上が在宅依存の実態

「老老介護」ではなく、《老障介護》という実態

●横浜市における支援マネジャーの実績



事業所コンサル

- ・コンサルテーション契約 170事業所
- ・支援マネジャー4人のべ訪問回数2000回
- ・主な事業所
 - ①GH
 - ②入所
 - ③生活介護
 - ④NPO法人・作業所



オール横浜
強行研修

- ・オール横浜強行研修（基礎1200人・実践170人）
- ・研修講師・ファシリテーターは
➡横浜市内100%



困難事例SV

- ・ミドルステイ事業
➡中期入所を活用した地域生活支援5例
- ・基幹相談との連携



報告

- ・四半期ごとの報告
- ・学会発表など

【Ⅰ 相談受付（相談・調整会議等）】
著しい行動障害のある人の相談・調整の場において専門的な助言が求められる

【Ⅱ インテーク（ケースアセスメント）】
著しい行動障害のある人の障害特性・スキルを直接・間接的にアセスメント

《コンサルテーション》

【Ⅲ 集中コンサルテーション】
著しい行動障害のある人を支援する事業所などでの継続的コンサルテーション（OJT）

《コーチング》

【Ⅳ 終結・フォローアップ】
ケースの振り返り（報告書の作成）
※As-PDCAの自立

《コーチングの目的》

チームの

○知識

●スキル

◎マインド



にアプローチ **チーム力の向上**を目指す

《職員研修》 OFF-JT（○知識）

①障害特性/②アセスメント/③構造化された支援/④行動マネジメント

※他の支援事業所見学も大変有効

《As-PDCA》 OJT（●スキル）

①包括的アセスメント/②事業所におけるケース検討の持ち方支援/③スーパーバイザーの育成

※アセスメント（特性・理解・動機）

やってみせること、具体的な次のステップ（ゴール）を示すこと、実現性と継続可能性を示すこと、**成果を持ってマインドの醸成を支援すること**

◎強度行動障害の理解 | 特性

◎環境との相互作用を知る | メカニズム

コンサルテーションステージにおけるワーク

●事業所の支援対象利用者をマーキングしましょう
(複数名可です) ①〇〇さん ②△△さん ③□□さん

反社会的行動

非行および
触法行為等

急性期の 精神科症状

興奮・混乱
混迷・拒絶等

強度行動障害

自傷・他傷・破壊
非衛生的・異食
極端な固執行動等

環 境

(物理的な環境、支援者、その他の人、状況等)

情報・刺激が
■偏ったり
■分かりにくい
■独特な形で
入ってくる

「分からない」
の積み重ね

●分からないと思われるもの
は何ですか？
・
・
・



伝えたいことを
■言葉ではない
■独特の表現や行
動を通して伝え
ようとする

「伝わらない」
の積み重ね

●本人の伝え方はどのよう
なものですか？
・
・
・

障害特性

重度の知的障害 + 自閉症の特性

標準

境界域

軽度

中度

重度

最重度

強い

自閉症の特徴

弱い

知的障害の程度



コンサルステージ

以下の順番で記入（箇条書き）

①テーマ

- ・ 支援のこと
- ・ 利用者さんのこと
- ・ 人間関係など

②理想

- ・ 目指すべき支援
- ・ 関係

③現状

- ・ 今を客観的に
- ・ できていないこと
- ・ できているけど足りないこと

④ギャップ

- ・ どのくらい差があるか
- ・ 不足しているものは何か

⑤行動計画

- ・ 何から始めるか
- ・ どのように行動するか
- ・ 誰が何を担うか

行動計画（ToDo Listへ）

・ 何から手を付けられるでしょう？

・ いつからはじめることができるでしょう？

・ 具体的に何をしますか？

・ 役割分担をどのようにしますか？

テーマ

・ 解決したいこと

・ 今、うまくいかないこと

現状

・ 今はどのような状態・状況ですか？

・ 何がそのようにさせているのでしょうか？

理想

・ どうなっていたいですか？

・ どうなれば良いと思いますか？

・ 理想がかなえばどのようないいことがあるでしょう？

ギャップ

・ 今、やっていないことは何でしょうか？

・ 何か変えることができないのでしょうか？

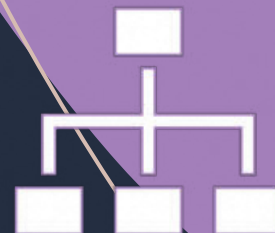
●支援マネジャーが「マネジメント」するのは、、、

マネジメント：組織の成果（知識・スキル・マインド・チーム力の向上）に責任を持つ



ケースワークマネジメント

As-PDCA実施コアメンバーのチーム力の向上



ソーシャルワークマネジメント

As-PDCAの拡大・展開

●コンサルテーション（助言）から、

➡EBP（根拠ある実践）のための「コーチング（能動的な自立支援）」

※コンサルタントを使いこなすことの重要性

◎自閉症の症状（三つ組み） | 特性



◎自閉症の学習スタイル | ニード

💡コーチングステージワーク

学習スタイル	○特徴 (困難さ)	●強み	支援アイデアを記入
①視覚的に考える	●目に見えない情報（ことば・暗黙の了解・時間など）に気づけない	○見える情報から具体的に考える	▶例) 予定を見える化 ・ ・
②組織化の困難	●情報を組み合わせることが難しい	○全体像を順を追って理解できる	▶例) 整理整頓 ・ ・
③独特な注意	●焦点が狭く深い	○強い集中力を発揮する	▶例) 大切な情報を強調 ・
④実行機能の弱さ	●因果関係がつかめない・同じ失敗を繰り返す	○いつも同じ繰り返しが得意	▶例) ルーティンを保証 ・
⑤感覚的な過敏・鈍さ	●刺激の取捨選択が困難	○心地よい刺激に没頭できる	▶例) 好きな刺激を保証 ・
⑥心の理論の弱さ	●人の気持ちを読み取れない・自分の感情変化に気づけない	○人の目を気にすることなく我が道をいく探究心	▶例) ルールや気持ちの見える化 ・

●アセスメントから支援計画、そして支援方略へ

支援計画

<原理・原則に則って>

- 状態目標・行動目標に
・本人の願いを行動レベルに)
- 発達レベルに即した目標に
・オーバースキル×
・めばえにアプローチする)
- 可能なかぎり一人でできる目標
・自律性・自立性
・満足感が得られること
- 役に立つ目標に
・機能性があること
・有益であること
- 保護者や職員の願いを
(ライフステージや優先順位を考慮して)

支援方略（構造化された支援）



●自閉症支援のアプローチの変遷



ABA

1970年代～

- 行動的アプローチ（行動随伴性）
- 古典的ABA（Lovaas） ex. 1週間40H

Develop

2000年代～

- 発達論的アプローチ（認知発達を評価）
- PRT（Kegel）DIRモデル（Greenspan） SCERTSなど
- *自然環境を重視： 般化をはじめから想定・専門家、機関<家庭・親

Blend

2014年頃～

- 包括的アプローチ（障害発達支援）
- EBPのミックス・ブレンド（Odom, Hume et, al.）
- *特定のプログラムではなく二つ以上のミックス
- *社会コミュニケーションを重視・ASD児と養育者の双方向を重視
- *自然環境介入を最も重視する

我々はEBP
ブレンド！
この時代にいる！

米国では自閉症に対する EBPは28ある

28

Steinbrenner et al., 2020

<https://ncaep.fpg.unc.edu/research-resources>

NATIONAL CLEARINGHOUSE ON AUTISM EVIDENCE & PRACTICE

Evidence-Based Practices for Children, Youth, and Young Adults with Autism

Jessica R. Steinbrenner, Kara Hume, Samuel L. Odom,
Kristi L. Morin, Sallie W. Nowell, Brianne Tomaszewski,
Susan Szendrey, Nancy S. McIntyre,
Şerife Yücesoy-Özkan, & Melissa N. Savage



National Clearinghouse on Autism Evidence
and Practice Review Team



FRANK PORTER GRAHAM
CHILD DEVELOPMENT INSTITUTE

Table 4.1 Comparison of evidence-based practices across review periods

Evidence-Based Practices from 1990-2017	Evidence-Based Practices from 1990-2011	Reason for Change	Manualized Interventions Meeting Criteria (MIMCs)
Antecedent-Based Intervention	Antecedent-Based Interventions		
Augmentative and Alternative Communication		Distinguished from Technology-Aided Instruction and Intervention as a separate practice	PECS®
Behavioral Momentum Intervention			
Cognitive Behavioral/ Instructional Strategies	Cognitive Behavior Intervention	Expanded category to include academic-focused cognitive interventions	
Differential Reinforcement of Alternative, Incompatible or Other Behaviors	Differential Reinforcement of Alternative, Incompatible or Other Behaviors		
Direct Instruction			
Discrete Trial Training	Discrete Trial Training		
Exercise and Movement	Exercise	Expanded category to include mind-body interventions (e.g., yoga)	
Extinction	Extinction		
Functional Behavioral Assessment	Functional Behavioral Assessment		
Functional Communication Training	Functional Communication Training		
Modeling	Modeling		
Music-Mediated Intervention			
Naturalistic Intervention	Naturalistic Intervention		JASPER Milieu Teaching PRT



- 先行事象介入 A
- 拡大代替コミュニケーション A
- 行動モメンタム（学習理論） A
- 認知行動療法 A D
- 分化強化（非両立行動・代替行動） A
- 直接的教授 A
- 個別取り出しトレーニング A
- 運動・動作法 D
- 消去法（学習理論） A
- ※ 行動随伴性 A
- 行動機能分析アセス A
- ※ 行動動機アセス・ビヨンドでも重視 A
- 機能的コミュニケーション A
- モデリング法 A
- 音楽療法 A
- 自然介入法 D B
(JASPER ピボタル反応法など)

- 保護者による介入
- ピア介入法
- 教授法
- 強化法
- リダイレクト法
(行動随伴・代替行動)
- 自己制御
- 感覚統合法
- ソーシャルナラティブ
- SST
- 課題分析法
- テクノロジー介入法
※iPECSなどもこれに入る
- 時間遅延法
- ビデオモニタリング
- 視覚支援
(構造化された支援など)

D	B	Parent-Implemented Intervention	Parent-Implemented Interventions		Project IMPACT Stepping Stones Triple P
			PECS®	Moved to <i>Augmentative and Alternative Communication</i> as MIMC	
	B	Peer-Based Instruction and Intervention	Peer-Mediated Instruction/ Intervention	Expanded category to include adult-mediated interventions with peers	
			Pivotal Response Training	Moved to <i>Naturalistic Intervention</i> as MIMC	
	A	Prompting	Prompting		
	A	Reinforcement	Reinforcement		
	A	Response Interruption/ Redirection	Response Interruption/Redirection		
			Scripting	Moved to <i>Visual Supports</i>	
		Self-Management	Self-Management		
		Sensory Integration®			
	D	Social Narratives	Social Narratives		Social Stories™
		Social Skills Training	Social Skills Training		PEERS®
			Structured Play Groups	Moved to <i>Peer-Based Instruction and Intervention</i>	
	A	Task Analysis	Task Analysis		
	B	Technology-Aided Instruction and Intervention	Technology-Aided Instruction and Intervention	NOTE: Speech-Generating Devices were moved to <i>Augmentative and Alternative Communication</i>	FaceSay® Mindreading
		Time Delay	Time Delay		
		Video Modeling	Video Modeling		
		Visual Supports	Visual Supports		

Five-Day Class Room Training



【受講者が達成できること（HPより抜粋）】

- ASDを伴う小児および青年のユニークな学習スタイルを理解する
- インフォーマルアセスメントを実施して学習目標を設定し、
個人設定とグループ設定の両方で、ASDの生徒に意味のある個別の視覚支援を作成する。
研修カリキュラムに沿った構造化された教育支援の方略を実現できる
- 行動評価から問題解決アプローチにて行動問題に対処する
- リラクゼーションと対処の介入を開発・実施できるようになる
- 保護者との協働の方法を学び実践できるようになる

月 講義・ASDの 学習スタイル	火 自立学習に向 けたアセスメント	水 コミュニケーション	木 家事・職業活動	金 余暇・社会性
<ul style="list-style-type: none"> ・モデル情報の集約とアセスメント ・保護者からの情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント ・個別支援プロ ・構造化・再構造化（演習） ・当事者の声 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント ・個別支援プロ ・構造化・再構造化（演習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント ・個別支援プロ ・構造化・再構造化（演習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント ・個別支援プロ ・構造化・再構造化（演習） ・行動マネジメント

●EBP実践・支援者養成・コーチング（コーチ育成）は三位一体

トレーニング要素ごとの効果 Joyce & Showers 2002

トレーニングの要素	トレーニングの成果：研修受講者の%		
	知識	示されたスキル	教室での活用
理論の学習と討議	10%	5%	0%
トレーニングの場での実演	30%	20%	0%
トレーニングの場での練習とフィードバック	60%	60%	5%
コーチング（実際のサポートとフィードバック）	95%	95%	95%

■Joyce, B. R., & Showers, B. (2002). Student achievement through staff development (3rd ed.)

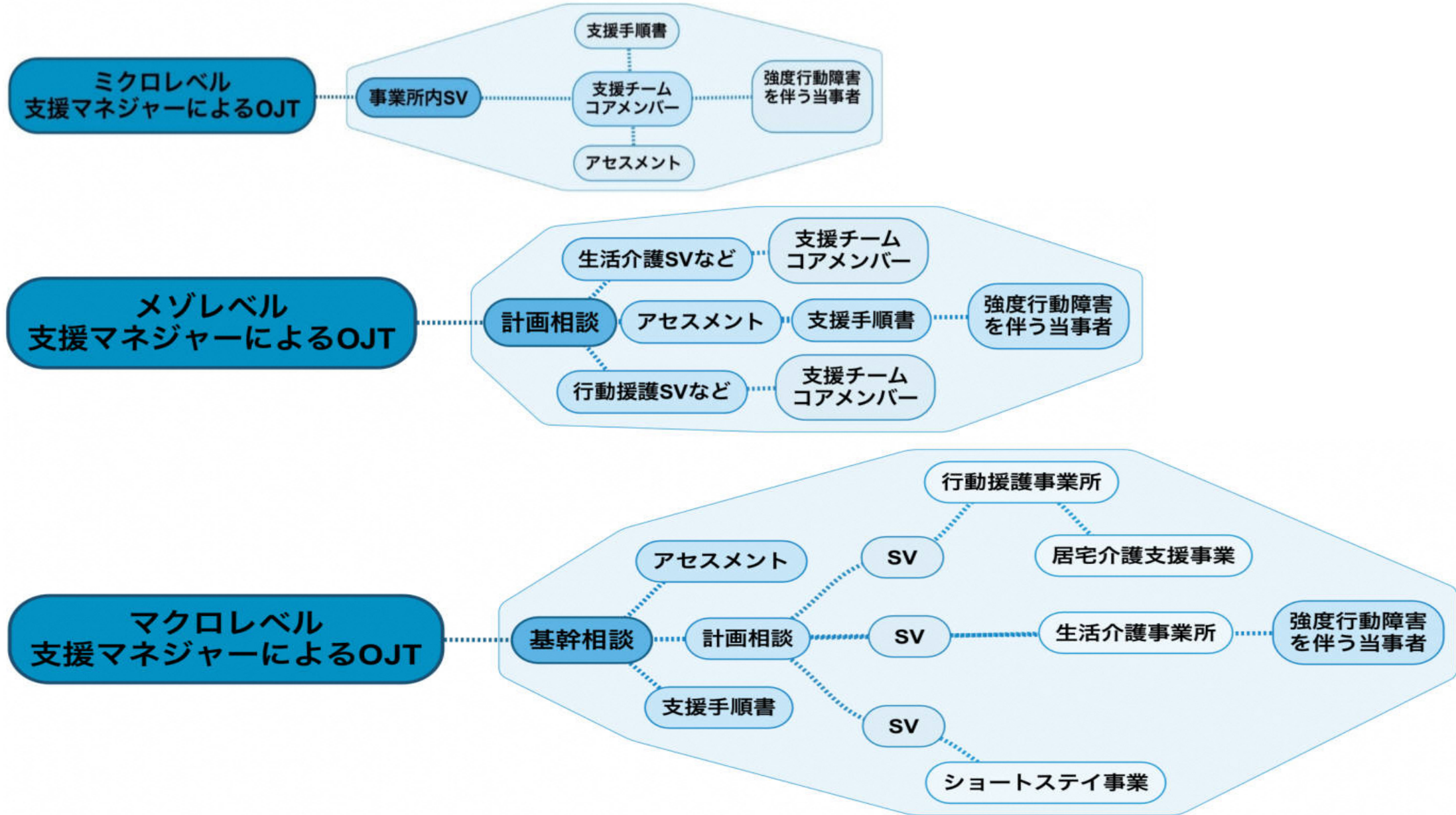
Guidance & Coaching
on Evidence-based Practices
for Learners with
Autism
Spectrum
Disorders



Suzanne Kucharczyk
Evelyn Shaw
Brenda Smith Myles
Lisa Sullivan
Kate Szidon &
Linda Tuchman-Ginsberg

https://autismpdc.fpg.unc.edu/sites/autismpdc.fpg.unc.edu/files/imce/documents/NPDC_CoachingManual.pdf

● 支援マネジャーによるコーチングレベル



○ミクロ事例：Aさん（入所施設支援）

【ケースAさん】



入所施設利用の21歳男性

- 自閉症、IQ測定不能、うつ病、双極性障害、支援区分6、行動関連項目32点
- 行動問題：噛みつき、長時間の行動停止

【アセスメント】

	職業スキル			職業行動			自立機能			余暇スキル			社会的コミュニケーション			対人行動		
	前授	家課	学校	前授	家課	学校	前授	家課	学校	前授	家課	学校	前授	家課	学校	前授	家課	学校
12																		
11																		
10																		
9																		
8																		
7																		
6																		
5																		
4																		
3																		
2																		
1																		
合計	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発生率	1	2	2	6	3	4	3	1	3	3	4	3	2	1	2	6	2	2

● Vinland-Ⅱ（相当年齢）受容言語0:11

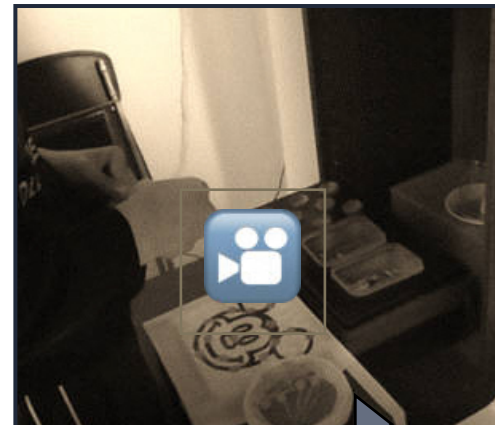
表出言語1:1 読み書き3:6 身辺自立1:9 家事0:8 地域生活1:0 対人関係0:4 遊びと余暇1:4 コーピングスキル0:10 粗大運動1:6 微細運動1:5

● 感覚プロファイルSSP👉全般的な低反応および感覚探究（視覚）

● PEP-3/TTAP

👉自閉症特性シートへ

【支援方略】



○物理的構造化

○スケジュール（実物）

○ワークシステム（手前から奥）を導入

●教授法は行動モメンタム（EBP）を活用

【結果】

行動項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 自立行動の獲得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 他害行為の減少	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
3. 生活シナリオの実践	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 行動停止の減少	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
5. 生活シナリオの実践	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 行動停止の減少	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
7. 生活シナリオの実践	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 行動停止の減少	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
9. 生活シナリオの実践	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 行動停止の減少	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
11. 生活シナリオの実践	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12. 行動停止の減少	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
合計	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	1440

◎自立行動を獲得

◎他害行為は月平均

4 → 0 回へ。課題実施中の行動停止は無い

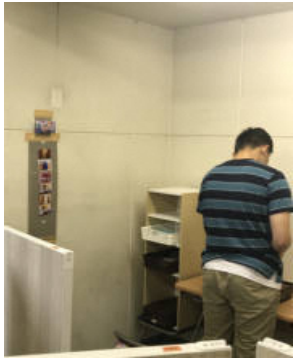
👉今後、生活日課とリンクさせ「生活シナリオ」化へ

課題分析による行動項目		1回	2回	3回	4回	5回	6回	自立度	再構造化の内容
⑨	おやつを食べる	F	P	P	P	P	P	83	
⑧	居室のおやつエリアへ移動する	F	P	EL	P	P	P	66	
⑦	強化子（シンボル）のビンを取る	F	EH	EL	EH	P	P	33	ビンを透明にし、台座を赤くハイライト
⑥	終了した自立課題を終了箱に入れる	F	F	EH	P	P	P	50	
⑤	奥の自立課題に取り組む	F	F	P	P	P	P	66	
④	終了した自立課題を終了箱に入れる	F	F	EL	EH	P	P	33	終了箱を白く明瞭化
③	手前の自立課題に取り組む	F	F	P	P	P	P	66	
②	活動エリアへ移動する	F	F	P	P	P	P	66	
①	活動シンボル（ボール）を受けとる	F	EL	EH	P	P	P	50	強化子を用いて「立ち上がる」を支援
全行程におけるP（合格）数		0	2	4	7	9	9		
全行程における自立度（%）		0	20	40	80	100	100	%	
コード：P（合格）/EH（高いめばえ）EL（低いめばえ）/F（不合格）/回（全行程におけるP数・棒グラフ）/									再構造化の導入

注）課題分析項目のうち○は、総課題合格数の推移（棒グラフ）を表している

◎メゾ事例：Bさん（アパート独居：行動援護・重度訪問介護）

【ケースBさん】



- 20歳男性、自閉症、IQ不明（療育手帳A1）、支援区分6、行動関連項目25点
- 行動問題：通所先・家庭における固執行動（折り紙の要求・予定確認など）への対応困難

【アセスメント】

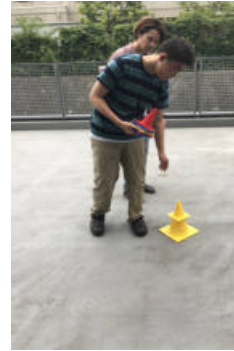
	職業スキル			職業行動			自立機能			余暇スキル			機能的コミュニケーション			対人行動		
	直接	家庭	学校事業所	直接	家庭	学校事業所	直接	家庭	学校事業所	直接	家庭	学校事業所	直接	家庭	学校事業所	直接	家庭	学校事業所
12																		
11																		
10																		
9																		
8																		
7																		
6																		
5																		
4																		
3																		
2																		
1																		
合格	0	0		1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	4
生え	1	1		1	7	1	1	3	1	1	3	2	1	2	3	3	7	2

- Vinland- II（相当年齢）受容言語1:0 表出言語1:11 読み書き3:3 身辺自立3:0 家事2:10 地域生活3:2 対人関係0:10 遊びと余暇0:11 コーピングスキル1:1 粗大運動2:1 微細運動0:8
- 感覚プロフィールSSP 触覚過敏性:12高い/味覚・嗅覚過敏性:6高い/動きへの過敏性:7高い/低反応・感覚探求:14高い/聴覚フィルタリング:15高い/低活動・弱さ:10高い/視覚・聴覚過敏性:17非常に高い

●TTAP

- 自閉症特性シートへ

【支援方略】



- 物理的構造化
- スケジュール（デイリー）
- ワークシステム・スケジュールを2Wのショートステイの活用により包括的評価→構造化支援の実施

【結果】



- ◎ 包括的アセスメントをもとに、新規通所事業所と行動援護事業所、居宅介護事業所との連携を実施
- ◎ 安定したアパート生活の実現・継続

◎マクロ事例：Cさん（家庭・生活介護・行動援護・重度訪問介護）

【ケースCさん】



- 24歳女性、自閉症、IQ不明（療育手帳A1）、支援区分5、行動関連項目12点
- 行動問題：通所拒否（2年間）、脱衣、著しい破壊行動により自宅が損壊

【アセスメント】

	職業スキル			職業行動			自立機能			余暇スキル			余暇行動			対人行動		
	面接	家庭	社会	面接	家庭	社会	面接	家庭	社会	面接	家庭	社会	面接	家庭	社会	面接	家庭	社会
12																		
11																		
10																		
9																		
8																		
7																		
6																		
5																		
4																		
3																		
2																		
1																		
合計	8	0	0	6	0	0	2	0	0	3	0	3	0	2	0	9	3	0
平均	1	0	0	6	0	0	1	0	0	4	3	0	3	0	0	5	5	0

- Vinland- II
- 感覚プロファイル SSP
- TTAP
 - ・職業スキルに合格多
 - ・めばえスキルも多い
- 自閉症特性シート

【支援方略】

支援手帳書 第 記録用紙(平日夜・通所) 年 月 日 () 対応者:				
ヘルパーやることリスト(未実施の場合は用紙へ引き継ぐ)				
明日のヘルパーグッズ、本人用グッズ準備 <input type="checkbox"/> 各活動物品 片付け <input type="checkbox"/> 記録記入 <input type="checkbox"/>				
時間	活動	本人の動き	支援者の動き	特記事項
10:00	帰宅 → 手洗い	①「家」カードマッチング ②靴を脱ぎ、カバンを置く ③「手洗い」カードを取り、洗面所へ、手を洗う ④「T」カードを持ち居室にマッチング	●準備(居残り)★片付け ★帰宅前：お風呂・手洗い ★カード準備(居残り) ①②③見守り →リビングにて母と引き継ぎ →出勤かばんをリビングに片付け	
11:15	休憩 → おやつ	①「おやつ」カードマッチング、着席 ②おやつ、お茶を食べる ③トイレをラックに片付ける ④「T」カードを持ち居室にマッチング	●準備：トイレ、お茶、タオルを準備 おやつラックをトイレに ★片付け：居室脱履後	
12:30	休憩 → 入浴	①「お風呂」カードマッチング、入浴 ※「お風呂入浴の手順」は別紙参照 ②「T」カードを持ち居室にマッチング	●準備：入浴準備 ※入浴・ばんどう・着替え →皮膚状態を母へ引き継ぎ ★片付け：居室脱履後	
13:30	休憩 → お茶	①「お茶」カードマッチング、着席 ②お茶を飲む ③コップをラックに片付ける ④「T」カードを持ち居室にマッチング	●準備：トイレ、お茶を食卓に準備 ★片付け：居室脱履後	
14:45	休憩 → 夕食	①「ごはん」カードマッチング、着席 ②ごはんを食べる ③お茶を飲み終わったら茶を飲む ④トイレをラックに片付ける ⑤「T」カードを持ち居室にマッチング	●準備：ごはん、お茶、水2杯 (1杯は茶を漬けておく)、タオルを食卓に準備 ③茶の残りを水で流す	

- 物理的構造化
- スケジュール
- ワークシステムを3ヶ月のミドルステイ事業の活用により包括的評価→構造化支援の実施

【結果】



- ◎包括的アセスメントをもとに、新規通所事業所と行動援護事業所、居宅介護事業所との連携を実施
- ◎安定した通所と家庭生活が送れている

ヘルパーやることリスト【未実施の場合は母へ引き継ぐ】

- ☐ 明日のヘルパーグッズ、本人用グッズ準備 ☐ 各活動物品 片付け
☐ 食器・おやつタッパーあらい ☐ 記録記入

時間	活動	本人の動き	支援者の動き ●準備(母準備)★片付け	特記事項	対応者
17:00	帰宅 ↓ 手洗い	①「家」カードマッチング ②靴をしまう、カバンを置く ③「手洗い」カードを取り、洗面所へ。 手を洗う ④「T」カードを持ち居室にマッチング	●帰宅前: スグール・「手洗い」 カード準備(母) ①②③見守り →リビングにて母と引き継ぎ ・出勤かばんをリビングに片付け		
17:15	休憩 ↓ おやつ	①「おやつ」カードマッチング、着席 ②おやつ、お茶を食べる ③トレーをラックに片付ける ④「T」カードを持ち居室にマッチング	●事前: トレー、お茶、タオルを 準備 おやつタッパーをトレーに ★片付け: 居室戻り後		
17:30	休憩 ↓ 入浴	①「お風呂」カードマッチング、入浴 ※「お風呂入浴の手順」は別紙参照 ②「T」カードを持ち居室にマッチング	●事前: 入浴準備 ※入浴・ばんそうこう・薬介助 →皮膚状態を母へ引き継ぎ ★片付け: 居室戻り後		
18:30	休憩 ↓ お茶	①「お茶」カードマッチング、着席 ②お茶を飲む ③コップをラックに片付ける ④「T」カードを持ち居室にマッチング	●事前: トレー、お茶を食席に準備 ★片付け: 居室戻り後		
18:45	休憩 ↓ 夕食	①「ごはん」カードマッチング、着席 ②ごはんを食べる ③お茶を飲み終わったら薬を飲む ④トレーをラックに片付ける ⑤「T」カードを持ち居室にマッチング	●事前: ごはん、お茶、水2杯 (1杯に薬を溶かしておく)、タオル を食席に準備 ③薬の残りを水で溶かす		

行動支援

時間	活動	サービス手順	留意事項
8:45-9:15	迎え・乗車	トイレ→散歩促し(口頭)	花粉症グッズを準備
9:15-9:25	散歩(梅林)	下車促し→歩行介助(左側)	トイレ確認・方向意思確認
9:25-9:45	散歩(広場)	歩行介助→トイレ	トイレ排泄確認・ふき取り介助
9:45-10:00	散歩(ロッジ)	歩行介助→トイレ	トイレ排泄確認・ふき取り介助
10:00-10:05	着替え・ジュース	着替え→ジュース→トイレ	トイレ後、ジュース対応
10:25	乗車	生活介護事業所へ通所	

生活介護

時間	活動	サービス手順	留意事項
10:15-10:30	来所	車から下車→作業エリアへ誘導	上履きを用意・左側から介助
10:30-11:30	個別活動	トイレ→自立課題→お茶	ワークシステム・自立課題の準備
11:30-12:00	昼食	自立課題→昼食→お茶	食事は刻みで提供
12:00-13:00	個別活動	トイレ→自立課題→お茶	ワークシステム・自立課題の準備
13:00-14:00	個別運動	トイレ→余暇課題→お茶→就寝	サーキット(踏み台昇降)の準備
14:00-15:00	起床・朝食・帰宅	トイレ→余暇課題→お茶→帰宅	お茶は少量・移動時は左側から介助

ショートステイ

時間	活動	サービス手順	留意事項
17:00-17:10	来所	車から下車→小舎へ移動	上履きを用意
17:10-18:00	個別活動	トイレ→余暇課題→お茶	お茶は少量・移動時は左側から介助
18:00-20:00	夕食・入浴	余暇課題→夕食→入浴→お茶	食事は刻み・入浴時椅子用意
20:00-21:00	個別活動	トイレ→余暇課題→お茶	塗布薬・お茶は少量
21:00-22:00	個別活動	トイレ→余暇課題→お茶→就寝	お茶は少量・移動時は左側から介助
7:00-9:00	起床・朝食・帰宅	トイレ→余暇課題→お茶→帰宅	お茶は少量・移動時は左側から介助

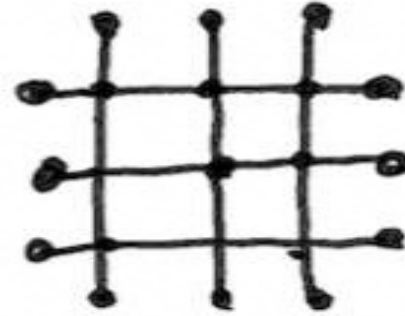
●コーチングにコアヴァリューがあるとするなら・・・



まとめ | 理解のためのキーワード

- ⇒ コンサルテーション（知識への助言）から **コーチング（スキルのトレーニングへ）**
 - 知識的助言は、評論に終始する。成果に責任を負うべきであり、そのためには **EBPの実践が不可欠（アセスメントスキルが最も重要）**
- ⇒ コーチングにはEBPが必要であり、組織の成果に責任を負う
 - **EBPコーチング実践には支援チーム力の向上を目的に据えなければならない。コアチームの組織化（ミクロ支援）から開始する（本人中心支援）**
 - **ミクロ支援からソーシャルワークを展開していく（本人中心主義の展開）**
- ⇒ コーチングステージの最終目標は、**コンサルタントの「活用」**
 - コンサルタントに期待すること（自分たちが望む自分たち像の醸成）
 - **「コンサルは使ってなんぼ」の境地へ（組織としての自立）**

●点と線と面と円と | オールJAPAN



ACROSS THE LIFESPAN

ライフステージを縦横に編み込むイメージ

《引用・参考文献》

- A. Jack Wall・服巻智子（2010）シャック・ウォール博士のコンサルテーションの極意！ ASDヴィレッジ出版.
- Joyce, B. R., & Showers, B. (2002). Student achievement through staff development (3rd ed.)
- 社会福祉法人横浜やまびこの里：VISUALメッセージライブラリー2 『自閉症でOK！』（2002）
- 社会福祉法人横浜やまびこの里：VISUALメッセージライブラリー6 『はじめの一步』（2003）
- 米澤巧美 横浜市における発達障害者支援マネジャーのコンサルテーションの実際
発達障害研究41-2